

「暑いよお。」と言わんばかりに木陰でぐったりしているのは、僕の愛犬だ。去年の秋に我が家に迎えて、初めての夏がやってきた。愛犬にとって生まれて初めて外で過ごす夏。だが、よりによって、僕が経験してきた夏を遥かにしのぐ暑さの夏が来てしまった。これも地球温暖化の影響なのだろうか。調べてみると、IPCC第六次評価報告書に「人間の影響が地球を温暖化させてきたことに疑う余地がない。」と断言されていた。

地球温暖化を抑制するために、フィンランドやスウェーデン、オランダなどでは「炭素税」が課せられているそうだ。日本ではまだ導入されていない。炭素税は、化石燃料に対して課される税金で、排出される炭素の量に応じて税負担に差を付け、温室効果ガス排出を抑制することが目的になっている。僕は、そんな税金があることに、興味が湧いた。

地球温暖化は最近特によく耳にするが、僕たちのいない未来のことであり、僕たちに直接は関わらないことだと思っていた。でも、「もう始まっているんだ。」そう、全人類が直面している現実なのだ気付いた。今年の夏は、各地で頻繁に発生した線状降水帯による洪水、連日の体温を超える気温の観測などが見られた。しかも、熱中症アラートによる部活動の制限もされた。もうすでに僕たちは地球温暖化の影響を受けていたのである。

炭素税は日本では本格的に導入されていないが、近く導入されると言われている。もし、炭素税が導入されたら、炭素に価格をつけて「見える化」するカーボンプライシングによって、排出量を抑える行動を起こすきっかけとなると思う。同じ目的の値段の違う二つの商品があった時、僕だったら今は迷わず安い商品を選ぶ。でも、その商品が環境に良いかどうかは分からない。もしかすると、値段が安い方は炭素排出量が多く、値段が高い方は生産コストはかかるが、環境に配慮されている商品かもしれない。しかし、炭素税が導入されると、税の上乗せによる値段の逆転が、環境に良い商品を消費者が自然と選ぶことを可能にさせるだろう。すると、企業も環境に配慮した商品の開発に取り組むことになる。まさに一石二鳥、僕も環境に良い商品を手にはしているはずだ。さらに、SDGsのゴール十二の「つくる責任、つかう責任」にもつながる仕組みになっていくと考える。

僕にとっての税金とは、余分にかかる、払わされているといった負の印象があった。しかし、よく調べて考えてみると、税金の「意味」が見えてきた。炭素税というたった一つの税金が、地球温暖化問題に向き合わせてくれ、色々と考えさせ、行動へと導いてくれる。そう、一つの行動の源となる、それが税金の「意味」なのではないだろうか。

地球温暖化は人間による「人災」だ。ならば、人間が止めよう。未来の地球、そして僕たち、愛犬を守るために。